

整理番号	19-58	事務事業名	北広島市聴力障害者協会 補助事業		作成部署	保健福祉部福祉課	電話	内線812
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	上村 弘志	課長職名	小西 洋一	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	昭和58年	根拠法令等	北広島市補助金等交付規則					
" 終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	障がい者団体の様々な活動を支援し、社会的地位の向上と自立と社会参加を促進する。							

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	安全で安心できるまち	(第1章)
	節	障害者福祉	(第4節)
	施策	社会参加の促進	(第2施策)
目的 (ここから成果指標を導きます)	対象 (誰、又は何を)	北広島市聴力障害者協会	
	意図 (何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	協会の活動を支援することにより、聴力障害者の福祉、文化教養、保健等について充実を図る。	
手段 (ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	【団体の活動内容】 全道ろうあ者大会参加、スポーツ大会、研修会への参加、レクリエーション活動。 毎週開催の手話サークル学習会への講師派遣、手話講習会への講師派遣。
		17年度	同上

2 実施(ドゥ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	119	119	119	119
	合計	119	119	119	119
人件費 (概算)	人数(年間)	0.01	0.01	0.01	0.01
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	90	90	90	90
総事業費 +		209	209	209	209

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	会員数	25人	26人	27人	27人
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	全道ろうあ者大会参加者数	6人	3人	6人	6人
	手話学習会開催数	140回	140回	140回	140回
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	会員1人当たりコスト (総事業費÷会員数)	8,360円	8,038円	7,740円	7,740円

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	障がい者団体を支援することにより活発な活動が行われ、これにより自立や社会参加が促進し、社会的地位の向上も図られることから、今後も団体の活発な活動は続くものと思われる。
---------------------------------	---

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	財源確保が不安定な団体の活動を促進するためには市の援助が必要と思われる。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	支援することにより活発な活動が展開される。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	財源確保が不安定な団体が活動していくために一部を補助するものであり適切と思われる。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない		

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	会員相互の交流が進み活発な活動が展開されている。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	補助金の執行でありコスト削減の方策はない。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	活発な活動を展開する障がい者団体を支援するものであり、今後も継続する。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	現在運営費及び事業費を対象として補助しているが、事業費のみを対象とする補助への転換を検討する。

付 表

補助金・交付金 交付先団体等の状況説明書

整理番号	19 - 58
------	---------

【交付先団体等の概要】

補助金・交付金名	北広島市聴力障害者協会補助金		
交付先の名称及び代表者名	北広島市聴力障害者協会 会長 中島 則義	設立年	S 5 8
構成員(団体)数	26人 (17年3月末現在)		
交付先団体等の活動目的	聴力障がい者の相互扶助のもとに団結し、会員相互の更生と社会的地位の向上に努めるとともに、聴力障がい者の福祉増進を図り、地域の発展に寄与することを目的とする。		
交付先団体等の活動内容	・聴力障がい者の更生福祉に関すること。・聴力障害者の文化教養に関すること。・聴力障がい者の調査研究に関すること。・聴力障がい者の保健に関すること。		
事務局の状況(16年度)	補助団体にある	市役所にある	
補助金等の充当状況(16年度)	運営費のみに充当	事業費のみに充当	運営費・事業費の双方に充当

【交付先団体等の決算・予算の状況】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	
収 入	本市補助・交付金の額(A)	119	119	119	
	会費	184	163	170	
	雑収入	90	14	161	
	その他		107		
	繰越金	51	31	31	
	収 入 合 計(B)	444	434	481	
	支 出	事業費(講習会,研究会,視察)	178	195	162
旅費		53	32	50	
負担金		121	121	121	
会議費		36	40	40	
役務費		8	5	10	
その他(予備費)		17	10	98	
		413	403	481	
繰越金	収入(B) - 支出(C)	31	31	0	
全体支出に対する本市補助・交付金の割合(A)÷(C)		29 %	30 %	25 %	
補助・交付金の対象経費(項目)		運営費・負担金	運営費・負担金	運営費・負担金	
補助・交付金の対象経費(金額)(D)		413	403	481	
対象経費に対する補助・交付金の割合(A)÷(D)		29 %	30 %	25 %	
補助・交付金の算出根拠		運営費26人×2,000円=52,000×0.9=46,800 人×5,500円×1/2=71,500 合計118,300円			負担金 道ろうあ連盟負担金26